

# 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 平成29年度事業計画

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

## 【基本理念】

ふるさと歴史財団は、横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保管及び公開を行うとともに、歴史や文化財に関する普及啓発を行い、先人たちのあゆみや積み上げてきた文化を市民共有のものとし、さらに次世代へ継承していくことで、ふるさと意識の醸成及び、市民文化の発展に寄与します。

## 【基本方針】

- 財団は、上記の理念に基づき、指定管理事業、埋蔵文化財センターや史跡管理などの文化財業務委託事業、市史資料委託事業、財団本部事業に一体的に取り組みます。
- 文化財行政の一翼としてこれまで果たしてきた役割を着実に継続していきます。
- 横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保存、保護に財団は一体的・継続的に取り組みます。また、埋蔵文化財の発掘を通し、遺跡や遺物の調査、研究、保存、保護に努めます。
- 文化財や歴史資料を活用し、調査・研究の成果を広く市民に発信しながら普及啓発に努めます。また、歴史資料の閲覧、歴史研究に関する助言及び指導などに努め、市民の学びを支えています。
- 市民協働、地域連携の事業を推進し、市民や地域に開かれた博物館を目指します。
- 学校連携を充実し、児童・生徒の学びを支えています。
- 横浜の歴史・文化や文化財を守り継承していくという財団の公益的使命を立ち位置とし、公益財団法人として公益性のある事業を展開すると共に、効果的・効率的な事業の展開ならびに経営力の向上を図りながら財団運営に取り組みます。

## はじめに

平成29年度は、「5館一括10年間」で託された第3期指定管理の2年目にあたります。新たな10年間をつくり上げる基盤づくりの時期と位置づけた28~30年度は、財団事業の一体的な推進、財団業務の一体化を目指し、その基盤を構築していきます。

昨年度は基盤づくりの1年目として、公益財団法人として当財団が置かれている状況について、市の外郭団体としての立場、指定管理者としての立場、委託事業の受託者としての立場から改めてとらえ直し、財団全体の事業の進め方について、新たに設置した事業推

進担当の在り方を含め、職員で共有を図りました。29年度は、業務を遂行する中で基盤をさらに整えていきます。

具体的な重点は次の通りです。

#### ✚ 企画展・常設展の魅力創出

- ・積み上げてきた調査・研究を基に、これまでの取組から見えてきた成果や課題を生かし、企業や大学等との連携、関連イベント等、魅力ある企画展の創出と新たな魅力を引き出す常設展示を工夫。魅力発信のための効果的・戦略的広報を推進。
- ・2020オリンピック・パラリンピックに向けた連携企画展の準備

#### ✚ 調査・研究の着実な取組

- ・横浜の歴史を市民に伝える基盤となる調査研究においては、学術的なつながりを幅広く持ち、一体的な調査・研究を継続して進める。また、大学・他機関等との連携による調査・研究を推進。

#### ✚ 閲覧機能の充実

- ・それぞれの館が所蔵する歴史資料や図書等について、所蔵資料の普及と有効利用を図るため、市民に対する閲覧機能を充実。

#### ✚ 文化財保護法に基づく発掘調査の実施

#### ✚ 学校連携、地域連携、市や区との連携の充実

#### ✚ 市民協働の推進

#### ✚ 博物館の魅力を伝える賑わいの創出

- ・より多くの方に博物館の魅力を伝えるために、開港記念日や地域のイベント、市や区のイベントと連動した企画や夜間開館、各館の開館祭等の実施により賑わいを創出。

#### ✚ 歴史と文化の継承のための歴史施設が持つ役割が明確化できる評価軸の検討

- ・定量的評価・定性的評価双方の評価軸検討を開始し、今後の事業の充実につなげる。

#### ✚ 個々の職員が自らのキャリアパスを意識できる自己申告制度の実施

#### ✚ 各館の安全・安心な施設管理と運営

各館がそれぞれの歴史と実践を踏まえ進めてきた取組を、その良さを継承しつつ、財団全体で情報を共有し、柔軟な発想と多様な連携を図りながら一体的に事業に取り組んでいきます。

## I 財団本部事業

### < 運営方針 >

財団本部は、ふるさと歴史財団が担う使命を財団職員、財団各施設が一体となって遂行していけるよう、公益財団法人として、指定管理者として、市外郭団体としての立場をふまえ、運営の方向性を明確に示しながら各施設と連絡調整を行い、財団全体として事業を推進していきます。

また、人材育成を着実に進められるよう、効果的な研修を実施していきます。

財団運営の適正な執行にあたり、理事会・評議員会の開催、神奈川県への報告等を行

\* 新規事業、重点的に取り組む事業については、ゴシック文字で表記しています。

うとともに、諸会議の運営、コンプライアンス制度の適切な運用、人事労務、財務、その他本部事務を執行し、円滑な財団運営を図っていきます。

各施設の老朽化や災害への対応については、施設の維持管理・来館者の安全を図るよう、所管局と協力し、継続して取り組んでいきます。

## 1 財団本部事業（定款第4条第2項）

上記の方針に基づき、以下の事業を行います。

### （1）円滑な組織運営

- ① 人材育成を着実に進める効果的な研修の実施
- ② 職員が自らのキャリアパスを意識できる自己申告制度の実施
- ③ 役員会、経営会議等の諸会議の開催、規則整備

### （2）財団人事・労務・財務の管理

- ① 職員の採用、異動等雇用管理
- ② 就業規則他諸規則の整備及び運用
- ③ 給与、社会保険、税金関係等
- ④ 定期健康診断の実施等による安全・衛生管理、福利厚生施策
- ⑤ 職員メンタルヘルスの支援
- ⑥ 一体的な取組、連携等を考慮した予算編成・管理・決算
- ⑦ 寄附金・協賛金獲得の企画調整

### （3）事業と予算編成

予算要求書の考え方を財団全体で共有し、各館、横断的事业、連携事業、全体に関わる事業など、予算編成を計画的、戦略的に進める。

### （4）災害対応

- ① 防災訓練の実施、改善
- ② 帰宅困難者一時滞在施設（歴史博物館）としての対応

### （5）理事会・評議員会の開催

- ① 定期開催
- ② 神奈川県への報告

### （6）所管局への報告・調整

### （7）共同広報の実施

- ① 財団ホームページの管理
- ② 財団メルマガの発行

### （8）情報システムの管理

- ① 情報システム機器（ソフトウェア等を含む）の保守・管理
- ② 情報セキュリティに関する啓発・研修
- ③ 財団内システムの更新〔30年度より〕に向けた準備

### （9）事業推進担当

29年度は、第3期10年間の基盤づくりの段階であることから、事業推進担当は事務局長以下、総務課長、事業推進担当課長、事業推進担当係長がチームとして整理・提案し、課長会で議論

しながら組織内の調整を図り、幅広い情報や意見を得ながら事業を進めていきます。

- ① 事業戦略の共通認識を図る
  - ② 財団内での多様な連携で取り組む「連携事業」の推進
    - ・ 2020オリンピック・パラリンピックに向けた連携企画展の準備
  - ③ 財団の役割や存在及び、財団事業を伝える効果的な広報戦略
    - ・ 昨年度検討された企画展PDCAを拠り所に、成果や課題を生かした事業の推進
    - ・ 横浜市新採用教員研修支援事業への取組
  - ④ 市民協働の推進
  - ⑤ 評価軸の検討
- (10) エデュケーター事業（学校連携）の実施（詳細は各施設の項目にて記載）
- ① 学校連携による財団各施設の利用促進の強化、拡充
  - ② 教育委員会、小・中学校社会科研究会及び財団で主催する教職員研修の企画・調整・運営
  - ③ 「小学校博物館利用研究会」「中学校教材開発研究会」企画・調整・運営
  - ④ 学校の社会科を中心とした授業改善に向けての協力・連携・支援
  - ⑤ 授業改善のためのアンケート実施と検証
  - ⑥ 歴史マップの制作と活用（ver. 4）

## Ⅱ 指定管理事業

### < 運営方針 >

第3期指定管理においては、3年、5年、10年の見通しをもった目標設定を行い、事業運営をしていきます。本年度は第3期指定管理2年目として、昨年に引き続き「5館一括10年」の基礎づくりを丁寧に行う時期として位置づけ、事業を進めていきます。

財団各館のこれまでの歴史と役割を十分に生かしつつ、それぞれの施設の強みを生かし、柔軟な発想と多様性を生み出しながら、一体的に、魅力的な事業を実施していきます。また、その実現を支える組織の構築と運営を行っていきます。

### 1 財団全体としての取組及び事業

#### 1 柔軟な発想と多様性を生み出す連携

##### ◇共同研究による調査・研究

市民の幅広い興味や関心に応えられるよう、昨年度に引き続き、各館の専門職が連携し、同じテーマに共同で取り組むなど、横断的な調査・研究に取り組みます。また、共同研究により、横浜の新しい「通史」を描いていく研究の基礎を構築します。

##### ◇魅力的な企画・展示・講座・出版

アンケート調査やこれまでの企画展の振り返りを活用し、幅広い年齢層や興味・関心等、市民の

ニーズに応える工夫に取り組みます。共同研究を基にした企画展、地域イベントなどまちの賑わいと連動した取組、多様な組織と連携した多彩な取組、歴史講座、各館情報冊子など、歴史の魅力と博物館の魅力を演出していきます。

#### ◇地域への貢献

区や地域では、区周年行事や町の活性化イベント、生涯学習講座など、歴史を通してまちづくりやふるさと意識を大切にする取組が行われています。高い専門性と歴史的視点から協力依頼される区、市の取組も多く、各取組が充実するよう、財団の専門性を活かし、積極的に地域への貢献を行っていきます。

#### ◇多様な組織との連携

多様な組織と連携・協力することにより、財団の高い専門性を活かすとともに博物館の魅力を伝えていきます。博物館の魅力が増す試みとして、企業連携や他施設との連携にも柔軟な発想で取り組んでいきます。

これまで各館が取り組んできたことを基に、財団の組織力を生かし、協力・連携して取り組みます。

★別表参照

#### ◇「開港記念日」の演出（市民優待デー）

昨年度、財団で初めて取り組んだ「開港記念日」の無料開館や多彩なイベントを今年度も継続して行います。「市民優待デー」として位置付け、横浜ならではの「開港記念日」（6月2日）を盛り上げていきます。

## 2 活力ある、魅力的な組織への取組

#### ◇横断的研究の継続

財団内の人材交流を活性化し、調査研究を充実させるために、各施設の職員が協同で行う横断的研究を今年度も継続して行います。また、ここで得られた研究成果を、今後の連携展示・連携企画に反映できるようにします。財団が目指す横浜の新しい通史を描く「研究の基礎となる体制」の構築に繋がる取組でもあります。

#### ◇人材育成の充実

職員一人ひとりの資質向上を図るとともに、財団全体で魅力ある事業を組織的に進めていけるよう、研修を充実させます。昨年度見直した研修計画を基に、中長期的な視点で人材育成を図る研修体系を構築し、実施していきます。

### ★別表 【多様な組織との連携および地域への貢献 29年度（予定）】

連携	連携先	中心となる施設	内容
区・地域との連携	中区	開港資料館 都市発展記念館 市史資料室	・区制90周年記念 開港記念会館100周年記念（H29年度） ・実行委員会、記念誌作成部会委員 執筆協力・監修（昨年度より継続）
	中区	開港資料館 都市発展記念館	・中区広報に連載執筆
	都筑区	歴史博物館 開港資料館	・区制25周年 記念誌作成執筆協力（昨年度より継続）

		ユーラシア文化館 三殿台考古館 埋蔵文化財センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都筑区主催の「都筑のまち・歴史講座」を共催</li> <li>・都筑図書館とのコラボ企画</li> </ul>
	神奈川区	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区制周年記念への協力（昨年度より継続）</li> </ul>
	保土ヶ谷区	歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区制周年記念への協力</li> </ul>
	磯子区	三殿台考古館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区内の市民利用施設が企画するゴールデンウィーク企画（「いそっぴゴールデンウィーク2017スタンプラリー」）への参加。</li> </ul>
	金沢区	歴史博物館 埋文センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史協定による連携事業、金沢図書館での展示</li> <li>・博物館デビュー事業による活動の拡大</li> </ul>
	青葉区	ユーラシア文化館	<b>全国都市緑化よこはまフェア 青葉区の取組への協力</b> （ゲル・民族衣装の貸し出し、ゲル設置の技術指導）
市との連携	環境創造局との連携	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第33回全国都市緑化よこはまフェアへの協力 館内展示、パネル作成、館周りの緑化等 （28年度より継続）《H29 3/25～6/4》</li> </ul>
	市主催研修会	都市発展記念館 開港資料館 ユーラシア文化館 市史資料室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・局主催の研修会への協力 （企画展を活用して）</li> <li>・市新採用職員研修での講話</li> </ul>
	各局	全施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市で開催されるイベントへの協力</li> <li>・館内展示、展示パネル作成等 ・寄稿</li> </ul>
教育委員会との連携	指導企画課 方面教育事務所 ハマアップ	全施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業づくり講座」等職員向け研修への協力</li> <li>・修学旅行事前授業（仏像の見方）</li> <li>・教材研究資料として財団作成資料・図録を配架</li> <li>・教員研修会案内</li> </ul>
	教職員育成課	全施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市新採用教員研修支援事業 （新採用教員の財団施設見学等）</li> <li>・アイカレッジでの研修講師、施設見学 （教員として横浜の歴史を学ぶ）</li> </ul>
	高校教育課	ユーラシア文化館 開港資料館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル人材育成</li> <li>・海外大学進学支援プログラム</li> </ul>
	生涯学習文化財課	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 三殿台考古館 埋蔵文化財センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもアドベンチャーへの協力 （夏休み期間中）</li> </ul>
市・区研究会との連携	社会科研究会 （市・区）	全施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員研修講師、施設見学</li> <li>・教材研究用資料案内</li> </ul>
学校連携	小学校	歴史博物館 三殿台考古館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸員、エデュケーターによる出前講座</li> </ul>

	小・中・特支学校 地域コーディネーター	歴史博物館	・博物館デビュー支援事業の継続〔文化庁補助事業〕 ・学校の歴史資料室の活用
	中学校社会科 研究会	歴史博物館	・社会科研究の展示発表（企画展示室）
	県内高校の社会科ク ラブ	開港資料館	・社会科クラブの生徒への研修・指導 ・県大会の後援、協力 〔開港資料館にて開催〕
	近隣小学校	三殿台考古館	・小学校の地域交流クラブ・サマースクール等 への支援
	職業体験受け入れ	全施設	・中学校2年生キャリア教育への協力
他館との連携	県立博物館等	歴史博物館、開港資 料館等	・調査研究 ・企画展での協力
	ヤオ族文化研究所 古代オリエント博物 館	ユーラシア文化館	・連携・協力による研究・企画展示
市民団体との 連携	地域歴史散策	埋蔵文化財センター	・栄地域史研究会と連携して、地域の遺跡や由 緒ある寺社を見学・散策。
	活動支援ボラン ティア	都市発展記念館 ユーラシア文化館	・活動支援ボランティアと連携して、企画展開 催時の土・日にワークショップを開催。
大学連携	大学等	ユーラシア文化館	・大学と連携・協力による研究・展示 （南山大学人類学博物館）
	大学学外研修	ユーラシア文化館	・大学の東洋史専攻の学生の課外授業に対応： 資料熟覧・展示解説など
市民協働	横浜郷土史団体 連絡協議会	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・協議会の事務局を務め研修や協働事業を実施 ・全国大会（H30年度開催）に向けた準備
地域連携	タウンセンター 活性化検討会	歴史博物館	・センター南・北の活性化企画や催しの実施
	日本大通り活性 委員会	都市発展記念会 ユーラシア文化館	・日本大通り周辺の事業所が連携し、活性化企 画や催しの実施
	国際フェスタ参 加	ユーラシア文化館	・「よこはま国際フェスタ」に参加し、イベント ブースを設置。
	NPO 法人 都筑 民家園管理運営 委員会	歴史博物館	・グローバル化や国際化の要請に向けた文化イ ベント（「都筑・遺跡公園・民家園アート月間」） の連携実施～「日本を知ろう」～ ・公園活性化への取組
企業との連携	富士ゼロックス(株) アサヒグループ食品(株) 富士茅葦建築 茅吉 等	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・企画展における最先端の展示手法の実験 （さくらやジオラマ） ・企画展の関連事業の実施 ・「日本を知ろう～茅葦屋根体験～」

## 2 歴史博物館事業

### < 運営方針 >

歴史博物館は、開港に至るまでの市域の歴史を「人々の生活」の視点から解明し、市民が「ふるさと横浜」の歴史と文化に親しみ、学ぶことができるよう努めます。同時に、市民の歴史・文化に求めるニーズの多様化やグローバルな視点から横浜の歴史を普遍化する要望などに、柔軟に対応していきます。そのために、職員一人一人が専門性の向上に努めることはもちろん、財団諸施設や外部組織と広く連携することにより、博物館としてのリテラシーを高め、事業の質の向上を図り、市民の期待や要求に即した活動を確実に実施していきます。

調査研究では市民との協働による研究を3つ、また財団施設間連携の研究を4つ実施します。市民協働や施設間連携の利点を活かしつつ、これらの研究成果は企画展などの事業に繋げ、市民に還元していきます。

企画展事業では、春に来館する学校団体を対象にした「横浜発掘物語」展、6月からは一つのテーマや地域に関し専門・時代の分野を超え探求するテーマ展、今回は「三浦半島をめぐる交流」を取り上げます。夏には神奈川県立歴史博物館と連携する浮世絵展、秋には大塚・歳勝土遺跡公園開園20周年を記念する企画展を開催します。冬には神奈川県埋蔵文化財センターの考古展を当館で初めて開催、1月からは開港資料館の企画展と連動した横浜の銭湯展を開催します。

常設展事業では、昨年度導入した解説ボランティア活動をより充実させるとともに、2年目に入った区民デーの周知を図り、市民・区民へ地域の歴史に興味を持っていただく機会を広げていきます。

この他、学校団体利用促進のための月曜日臨時開館、市の有形民俗文化財に指定された街頭紙芝居（複製）上演、「開港記念日」や感謝デーにおける各種集客イベントの実施などを継続し、市民サービスの向上と館の活性化に努めていきます。さらに、地域や多様な組織との連携も重視していきます。都筑区や青葉区、金沢区の文化事業への参画や協力、NPO法人との遺跡公園活性化事業、民間事業者との企画展示室における実験的企画等を実施し、当館の活動の場を多様な繋がりの中から広げていきます。

開館後22年を経て、常設展示室の内容や機器類、遺跡公園や施設・設備等の老朽化が進んでおり、常設展示のリニューアルの検討を進めると同時に、安全を優先する適切で施設の維持・管理にも取り組んでいきます。

また、平成25～28年度に続き、平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金「地域と協働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」に、当館が核となり実行委員会を構成して「学校内歴史資料室を活用した博物館デビュー事業」を応募し、市内の小中学校が所蔵する資料の調査・整理、学校内資料室の整備・活用やオリンピック・パラリンピックに向けた観光・文化プロジェクトを進めていきます。

### 1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

博物館の基幹となる事業であるので、寄贈資料の受入をはじめ積極的に資料の収集を進めていきま

す。

### (1) 資料の収集

項 目	目的・意図
寄贈・寄託資料の受入	市民に理解と協力を求め、資料を散逸から守る。
実物資料の購入	企画展・常設展での展示をはじめ、体験学習室等、博物館活動で使用する資料を収集する。
レプリカ製作	市域にかかわる資料の複製等を行う。
マイクロ撮影	市域にかかわる歴史資料のマイクロフィルム化を行う。

### (2) 資料の修繕

古文書の裏打ち、考古資料の修復、美術工芸資料の修復を行う。

### (3) 資料の保存

収蔵庫へ納める資料については二酸化炭素などを利用した燻蒸を行い、また I P M の手法による定期的な環境検査を実施して資料の保存環境の維持を図る。

### (4) 資料の整理活用

歴史博物館等で保管する考古・歴史・民俗資料の整理を進める。また収蔵資料および展示資料のデジタル写真の撮影と整理を進める。また過去に撮影して保管しているフィルムについては、順次デジタル化を進める。

### (5) 図書資料の公開

図書文献を収集して整理を進め、図書閲覧室で公開する。

### (6) 画像資料等の貸出

画像資料等を有料で貸出し、資源の活用を図る。

## 2 調査研究事業 (定款第4条第1項第1号①)

### (1) 調査研究

博物館活動の原資となる調査研究は、基礎資料研究・テーマ研究・市民協働研究の3分野を設定し、継続的かつ計画的に進めていく。

項 目	目的・意図	今年度の成果目標
<b>基礎資料研究</b>		
横浜地域貝塚の研究 (2/3年次)	横浜地域には、縄文時代から近世に至る多数の貝塚があるが、自然遺物についてはその分量が膨大なため、未整理・未報告に終わっている場合が多い。これらの未報告資料の中から研究上重要なものについて、基礎整理作業を行い、報告する。	本年度は弥生時代の貝塚をとりあげ、埋蔵文化財センターに保管されている上台北遺跡(鶴見区)などの未報告資料の整理と分析を行う。(28年度に予定していた内容だが、本年度に変更する)
横浜市内の後期旧石器遺物の研究(2/3年)	横浜市内南部の後期旧石器時代の遺跡について、河川流域ごとに出土資料の実見を中心とした調査を行い、石器	本年度は帷子川、大岡川流域の当該期の遺跡・遺物を調査しその様相を概観する。

	群の様相を明らかにする。	
上矢部富士山古墳出土埴輪の研究（2／3年次）	当館収蔵の横浜市指定文化財、上矢部富士山古墳（戸塚区）の未整理破片について、調査時の図面や写真と対照し、個体の同定を試みる。可能なものについては注記・接合を行い、分類・復元・図化を行なう。最終的には個体の特徴を抽出し、同古墳埴輪を改めて概観する。	本年度は埴輪の未接合の破片について個体同定、注記・接合の継続、および分類作業をした上での復元作業を行う。なお、 <b>本年度より朝日新聞文化財団の文化財保護助成を受けて復元作業を進める。</b>
市域所在の中世資料の調査（2／3年次）	本調査研究では、昭和50年代以来行なわれていない市域中世資料の再確認を実施するとともに、その他市域に所在する古文書・金石文等の中世資料を概観し、調査と撮影をすることを目的とする。	昨年度実施した大嶋家（都筑区）・大曾根家（青葉区）、井上家（緑区）に続き、寺院所蔵文書等の確認を行う。写真のないものは撮影を実施する。
横浜市指定・登録民俗文化財に関わる調査研究（2／3年次）	横浜市指定・登録の民俗文化財を伝承してきた地域について民俗調査を実施し、伝承母体と地域性を明らかにする。	<b>本年度は、文化庁の文化遺産を活かした地域活性化事業を申請・活用しながら、緑区白山に伝わる指定文化財「廻り地蔵」を伝承する地域の調査を実施する。</b>
<b>テーマ研究</b>		
人面付き土器の研究（2／2年次）	平成26年度に寄贈を受けた神奈川県指定重要文化財である鶴見区上台北遺跡出土の人面付土器について、理化学的分析を含むさまざまな方面から検討を加え、その位置づけを明らかにする。	本年度は、内視鏡による土器内部の観察など、当該土器について多角的な分析を行なう。
横浜 市域の牧の研究（2／3年次）	現在の横浜 市域には、武蔵国立野・石川両牧が存在したとされている。これらの牧を中心に、関東近県の古代の牧について研究し、古代の牧をめぐる地域社会の動向を明らかにする。	本年度は引き続き関東近県の牧跡とされる遺跡の事例を調査し、資料を分析する。
幕末維新期の政局と横浜の村々の研究（2／3年次）	幕末～明治初年における、市域の村々に関する古文書などの資料を分析し、当該期の横浜の人々と政局や権力との関わりを考える。	戊辰戦争期の人馬徴発などについて、徴発する側の武州金沢藩や江川太郎左衛門の関係資料を分析し、市域村々との関係を検討する。昨年度に引き続き、幕末～戊辰戦争期の村々の資料についても所在調査、読み込みを進める。
近世後期の横浜 市域と「外圧」の研究（1／2年次）	江戸時代後期の横浜 市域が外国からの影響（「外圧」）をどのように受けていたのか、という課題について横浜	幕府外国方に関係した人物にかかわる原資料群の所在を確認・調査し、基礎的データを集積する。

	市内外に所蔵される資料から分析する。	
学校内歴史資料室に関する研究(2/3年次)	平成25年度から実施している「博物館デビュー支援事業」で進めている学校内歴史資料室の資料整理の成果を活用しながら、学校内歴史資料室の資料所在状況を明らかにする。	事業開始から5年が経過したこともあり、 <b>本年度は、本事業の効果の波及や認知の度合い</b> 、および横浜市内の学校内歴史資料室の所在や資料所在状況を改めて調査する。
<b>市民協働調査研究：市民とともに調査研究を行う</b>		
土器の実験考古学的研究(2/3年次)	市内出土の土器について、 <b>横浜縄文土器作りの会</b> の協力を得ながら観察と製作・使用実験などを行い、先史時代の土器利用について研究する。	本年度は、宮ノ台式土器の製作実験、使用実験を横浜縄文土器作りの会と共に行いその成果をまとめる。
武州金沢藩目付日記の研究(2/3年次)	当館で所蔵する武州金沢藩の目付の公用日記(慶応4年～明治3年)の記載内容の分析。 <b>横浜古文書を読む会</b> とともに解説を行い、活字化する。	慶応4年の目付日記を解説し、活字化する。初年度は1～6月ぶんを実施したので、今年度は7～12月を読み進める。成果は紀要等にて公開する。
市民協働民俗調査(2/3年次)	平成21年に発足した <b>民俗に親しむ会</b> について、新たな市民を加えて再組織し、市域のフィールドワークを行なう。	<b>新たな市民を加えて「民俗に親しむ会」を再組織</b> し、フィールドワークを中心とした活動を行う。

## (2) 連携調査研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設との連携研究を実施する。また平成30年度に開港資料館と連携して開催を予定している明治維新150周年関連企画展に向け、前出のテーマ研究を実施する。

<b>施設間の連携による研究</b>		
大塚遺跡の水田に関する研究(2/2年次)	神奈川県では弥生時代の水田遺構が確認された事例はなく、大塚遺跡も同様である。本研究では <b>三殿台考古館・埋蔵文化財センターと連携</b> し、水田遺構に関する先行研究や他地域の事例などを検討し、大塚遺跡における水田の位置を推定する。	本年度は大塚遺跡の未発見の水田遺構について、先行事例の調査・分析・聞き取りなどをまとめ、調査法の検討を行う。
ユーラシア概念をめぐる研究(2/5年)	<b>ユーラシア文化館と連携</b> して、日本の古代から中世世界を包括する東部ユーラシア世界の研究を進める。	年に3回ほど財団内外の研究者の研究発表会を開催し、東部ユーラシア世界の理解を深め、共同企画展などの可能性を模索する。
昭和期の横浜の都市生活に関する調査研究(2/3年次)	<b>都市発展記念館と連携</b> し、昭和期の横浜に在住した庶民の日記を分析することによって、戦前・戦中・戦後混乱	磯子区の時計店に勤務していた青年の日記(下平政熙日記)を分析し、今年度は昭和戦中期横浜の都市生活の

	期の横浜の都市生活の様相を明らかにする。	具体的様相を検討する。
銭湯を中心とする横浜の公衆衛生に関する研究（2/2年次）	開港資料館と連携し、戦前から高度成長期にかけて、臨海部の労働者の公衆衛生を担った「銭湯」について、歴史学と民俗学の両面から考察する。	今年度は開港資料館と連携し「銭湯」をテーマとした企画展を冬季に開催する。

### （3）企画展開催にともなう調査研究

来年度以降に予定する企画展・特別展の準備のために他の機関・施設への資料調査などを実施する。

## 3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

（1）展示物やビデオ機器類の保守点検、部分的な展示替えをふくむ維持管理、また修繕等を行う。

（2）常設展示室の構造と特色を生かして、来館者の満足度を高めるための事業を行う。

（観覧者目標数 75,500人）

（ア）ミニ展示：特設コーナーを設置して、収蔵資料等を展示紹介する「ミニ展示」を実施する。開催期間は各40日程度とし、開催中のラストサタデーには学芸員が解説を行う。また、冬季には新たな指定文化財などを紹介する「横浜市指定・登録文化財展」を開催する。

（イ）ボランティアによる常設展示解説：昨年度より常設展の解説ボランティアを導入し、その成果と課題を整理した。これを受け、今年度は増員による体制の強化や研修の充実により、学校団体をはじめ来館者の展示理解の向上に努める。

（ウ）市内小中学校教員を対象にエドゥケーターが展示を教材とした授業例を実演する。

（エ）小学3・4年の社会科学習に対応するテーマ（「昔のくらし」や「吉田新田」等の郷土史学習）に関連する常設展示について、来館した小学生を対象にエドゥケーター・展示解説ボランティアが解説を行う。

（オ）富士ゼロックス（株）の協力を得て、近世のメイン模型の新たな見せ方を開発し、実践する。

（3）開館以来20年の研究成果を反映し、新たに収集また寄贈・寄託を受けた資料を生かして、各展示室内の部分的なりニューアルを検討する。また歴史劇場は内容の古さに加えて機器の老朽化のため、早急な改修が必要な状況であり、劇場の改修と利用方法について検討する。

## 4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

### （1）企画展・特別展

本年度は4月には初めて歴史を学ぶ小学校6年生を主な対象とした「君も今日から考古学者！ー横浜発掘物語2017ー」、神奈川県立歴史博物館との連携企画展「丹波コレクションの世界Ⅱ 歴史×妖×芳年ー“最後の浮世絵師”が描いた江戸」（仮題）、大塚歳勝土遺跡公園開園20周年記念「早淵川流域の宮ノ台期集落」を実施するほか、財団内連携展示として企画展「ようこそニッポン ヨコハマの銭湯ーちょっと昔のお風呂屋さんー（仮）」を開港資料館と実施する。

（観覧者目標数 59,000人）

事業名称（仮題）／開催期間	観覧者目標数	目的・意図、実施内容
企画展「横浜発掘物語2017」 平成29年4月4日（火）	27,000人	発掘調査や考古資料から昔の人の生活を読み解くのが考古学について、その方法や成果を

～6月11日(日)		分かりやすく紹介する。また、実物資料に触れる、考古資料に関係した体験を展示に盛り込むなど、来館者が考古学を身近に思える展示を試みる。同時に埋蔵文化財センターの遺跡展を開催する。対象：小6以上・一般
テーマ展「三浦半島をめぐる交流」 平成29年6月21日(水) ～7月17日(月祝)	2,500人	間口洞穴出土資料(神奈川県立歴史博物館蔵、県指定重要文化財)と、館蔵の地図類により、弥生～古墳時代と江戸時代における三浦半島をめぐる交流の様相を描く。 対象：一般
企画展「丹波コレクションの世界Ⅱ 歴史×妖×芳年―“最後の浮世絵師”が描いた江戸」(仮題) 平成29年7月29日(土) ～8月27日(日)	6,000人	昨年度に引き続き神奈川県立歴史博物館と連携し、同館が所蔵する浮世絵コレクション「丹波コレクション」の作品を紹介する。今年度は幕末～明治に活躍した浮世絵師・月岡芳年を取りあげる。芳年晩年の名作「新形三十六怪撰」(揃)を中心に、作品に織り込まれた江戸文化や歴史を読み解く。解説やワークシートなど、夏休みの宿題への対応も検討する。 対象：小学生以上・一般
大塚歳勝土遺跡公園開園20周年記念「早渕川流域の宮ノ台期集落」 平成29年9月16日(土) ～11月12日(日)	6,500人	横浜市域において本格的に稲作が始まった時期である弥生時代中期後半に焦点を当て、土器研究や植物考古学など最新の研究成果を反映させつつ、当時の人々の社会や生活のあり方に迫る。大塚・歳勝土遺跡公園開園20周年、三殿台考古館開館50周年記念事業として、当館と三殿台考古館が主催し、埋蔵文化財センターの協力により開催する。 対象：一般
「神奈川県立埋蔵文化財センター考古展」 平成29年11月25日(土) ～平成30年1月9日(月・祝)	4,500人	神奈川県立埋蔵文化財センターと連携し、郷土神奈川の歴史への関心、埋蔵文化財を通じその保護についての理解を深めてもらうことを目的に、県内の発掘調査により出土した資料を活用した企画展示会を開催する。会期中には、講演会を2回、展示解説等を行う。対象：一般
企画展「ようこそニッポン ヨコハマの銭湯 -ちよっと昔のお風呂屋さん- (仮)」 平成30年1月28日(土)	12,500人	昭和戦後期の横浜沿岸部の発展を支えた労働者の公衆衛生を担ってきた「銭湯」について、開港資料館の企画展と連動し、横浜の銭湯をめぐる人々の動きを日本の入浴文化とあわせ

～3月20日(月・祝)	て紹介する。対象：一般
-------------	-------------

## (2) 講座・講演会

昨年度より始めた学芸員による毎月1回の定期講座を今年度も継続して実施する。

項 目	目的・意図
よこはまの歴史	専門職員やゲスト講師による横浜の歴史をテーマにした講座を月1回程度の頻度で開催する。
古文書解読教室	初心者を対象に、専門職員を講師として古文書の解読講座を開催する。平成29年秋～冬に実施予定。
特別講演会	横浜の歴史や文化をテーマとし、各界の専門家を講師に迎えて特別講演会を行う。平成30年2月上旬
実験考古学講座	港北ニュータウン地域内で出土した縄文時代の土器をモデルに製作する講座。市民協働の一環として、専門職員と横浜縄文土器づくりの会とが指導にあたる。全5回。関連事業として土器づくり教室作品展を開催する。

## (3) 普及体験

項 目	目的・意図
体験学習室	火打ち石や駕籠、石臼などの資料に直接触れながら、歴史を楽しみながら学んでもらう。プログラムは時期に応じて変更し、12月から3月にかけては小学校3年生のカリキュラムに合わせたミニ展示「ちょっと昔を探してみよう」を実施して、近隣小学校の利用促進を図る。
ワークショップ「れきし工房」	野外施設の工房や体験広場等で、楽しみながら歴史に触れるワークショップを開催する。まゆ細工、小田原ちょうちんづくり、横浜の土偶、そめもの、小さな土器づくり、和風等を実施。
大塚遺跡まつり	野外施設である大塚歳勝土遺跡公園を活用し、土器の野焼きや土器を使った調理実験、火起こしなど、古代の技術や生活を体験する催しを実施する。5月5日実施予定。
竪穴住居に泊まろう	遺跡公園の復元住居に家族単位で宿泊してもらって体験事業を実施し、竪穴住居や弥生時代の生活についての理解を深め、博物館や史跡管理についての理解を深めてもらう。
ナイトミュージアム	博物館閉館後に博物館内のガイドツアーを実施し、来館者へ特別な体験を提供する。また、夜間開館に対応するとともに、常設展示室の魅力を見直す取組である。
夏休み博物館たんけん隊	夏休み期間中、児童生徒を対象に、普段見ることのできない博物館の裏側や見どころの解説などを行い、特別な体験を提供するとともに博物館への理解・関心を深める。
実験考古学講座作品展	実験考古学講座の作品展を開催するとともに、土器づくりの過程を展示する。

「子どもアドベンチャー2017」への参画	横浜市が取り組んでいる、児童を対象とした夏休み企画へ参画する。
----------------------	---------------------------------



大塚遺跡まつり（火起こし）



ナイトミュージアム

(4) 集客イベント等

項 目	内 容
ラストサタデープログラム・区民デー	新たな顧客層獲得とリピート率向上のために、毎月最終土曜日を「ラストサタデー」と位置付け、常設展示室やエントランスホールなどを使って各種イベントを開催する。またこの日を月ごとに市内 18 区の各区民を優待する区民デーとしても位置づけ、対象区内の文化財を紹介するパネル展示を実施する。
「開港記念日」市民優待デー	開港記念日を祝し、当日を全館無料とし、常設展示室（近現代）で、横浜開港を中心とした展示解説やイベントを実施する。
エントランスホールコンサートの実施	歴史博物館をより身近なものとして利用していただくため、博物館エントランスを会場にコンサートを開催する。
博物館感謝デー	1月31日の開館記念日にあわせ、直近の土・日曜の2日間を全館無料とし、各種行事を実施する。(1/27・28)
街頭文化祭	8月及び感謝デーに紙芝居やパフォーマンスといった街頭で行われていた大衆芸能を実施し、新たな客層の集客を図る。
おもしろいぞ！紙芝居	横浜市の有形民俗文化財に指定された当館所蔵街頭紙芝居を活用し、ラストサタデープログラムの一環として複製した紙芝居を実演する。

(5) 市民協働

項 目	内 容
ボランティアの活用	〈展示解説ボランティア〉 市民ボランティアにより、大塚遺跡を始めとする博物館野外施設および常設展示室の解説を行う。学校団体を始めとする来館者の展示理解を深めると共に、遺跡の解説との一体的サービスにより、館全体の活性につなげる。

	<p>&lt;活動支援ボランティア&gt;          学校団体見学時の体験コーナー、ラストサタデープログラム等の集客イベントでの活動を行う。</p>
横浜郷土史団体連絡協議会との連携	開港資料館と共に <b>横浜郷土史団体連絡協議会</b> の事務局を担当し、連携して各種の事業を実施する。
横浜歴博もりあげ隊との協働	博物館をバックアップする市民団体である「 <b>横浜歴博もりあげ隊</b> 」と協力し、講座等のイベントを実施していく。大人向けの講座のほか、 <b>ミュージアムショップ</b> で販売している「 <b>あじろ編み小物入れ</b> 」などの <b>ものづくりワークショップ</b> を実施する。
横浜縄文土器づくりの会との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校からの要請に応じ、「<b>横浜縄文土器づくりの会</b>」との協働で出張土器づくり指導を実施する。</li> <li>・会員が製作した縄文土器を紹介する作品展を開催するほか、会の活動について広報を行う。</li> </ul>
古文書を読む会との協働	古文書解説教室の修了者が中心となって活動する「 <b>横浜古文書を読む会</b> 」と連携し、所蔵資料を中心に古文書の翻刻をおこない、当館の出版物にその成果を発表する。
古代史料を読む会との協働	古代史講読講座の修了者が中心となって活動する「 <b>古代史料を読む会</b> 」と連携し、歴史を学ぶ一般の方へ向けた講座や講演会などを企画・実施する。
さいかちの会との協働	展示解説ボランティアのOBや現役が中心となって活動する「 <b>さいかちの会</b> 」と協力し、講座や史跡の見学実習などの展示解説ボランティアのスキルアップに資する事業や研修を実施する。

#### (6) 学校連携

項 目	内 容
博物館利用の促進	<p>エドゥケーターを中心に、児童生徒向けテキスト・教員向けテキストを活用し、学校の博物館利用を促進する。教員を委員とする「<b>小学校博物館利用研究会</b>」、「<b>中学校教材開発研究会</b>」を継続して開催し、<b>小中学校との連携の強化を図る</b>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校団体受付拡充のため、4・5月の月曜臨時開館を実施する。</li> <li>・平成28年度から春季の6年生の見学予約にむけて導入した学校団体予約システムを改修し、機能強化を図る。あわせて、<b>秋・冬季の3・4年生の団体見学予約にむけた申込みシステムを導入する</b>。</li> </ul>
訪問授業・展示解説授業	昔のくらし・吉田新田などの社会科授業、総合学習における土器づくり指導などを <b>学校等の要望に応じて行う</b> 。
教員研修	教育委員会や小学校・中学校社会科研究会と連携して、展示を活用した学習法や体験学習カリキュラムの研修、「昔の道具しらべ」や「 <b>吉田新田の開発</b> 」など特定テーマに関する研修を実施する。

<p>学校内歴史資料室を活用した「博物館デビュー支援事業」</p>	<p>市内小学校の所蔵する資史料の調査・整理、学校内歴史資料室の整備・活用を進めるために、平成 25 年度より文化庁の補助を受けて実施してきた「博物館デビュー支援事業」を、今年度より一部、財団の事業として実施する。</p>
-----------------------------------	---



博物館デビュー支援事業



展示解説ガイドボランティア

(7) 地域や多様な組織との連携

項 目	内 容
都筑区との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 31 年に刊行予定の「図説 都筑の歴史（仮題）」の編纂事業を財団の他施設と共に協力する。</li> <li>都筑区主催の「都筑のまち・歴史講座」を共催する。</li> </ul>
神奈川区・保土ヶ谷区との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>区政 90 周年事業として区や補助事業者が実施する各区の記念事業に協力する。</li> </ul>
金沢区との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>金沢区と当財団が締結した「歴史文化の普及啓発に関する協定書」に基づき、文化事業などで連携を図る。</li> </ul>
NPO 法人「都筑民家園」管理運営委員会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>民家園・遺跡公園・博物館エントランスを会場に、グローバル化や国際化の要請に応え、「日本を知ろう」を意識した「都筑・遺跡公園・民家園アート月間」を開催する。10月頃実施予定。</li> <li>遺跡公園を会場にした「遺跡オーガニック マルシェ」の開催など、多彩な事業を展開する。</li> </ul>
タウンセンター活性化検討会での活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>センター南・北の活性化について、当該地区の諸事業所ともにアイデアを出し合い、区民まつり、センター北まつりへの出店も含めて多様な企画や催しを実施する。</li> </ul>
民間事業者との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>富士ゼロックス（株）と連携し、当館企画展や常設展示室において最先端のディスプレイや新たなサービスの提供実験を実施する。</li> <li>アサヒグループ食品（株）と連携して、未就学児を含む親子連れなど、当館に馴染みの薄い、新たな客層向けのイベントを実</li> </ul>

	施する。
その他の地域連携	・その他、市内や都筑区内の学校・大学、町内会、地区センター、市民団体、民間事業者などと随時連携し、大小の事業を実施する。

#### (8) 広報・広聴

項 目	内 容
広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営地下鉄駅構内の広報案内看板による広報。</li> <li>・市役所や図書館など公共施設、他の博物館や観光案内所等でのチラシ・パンフレット類の配布。</li> <li>・インターネットによる広報（ホームページ・SNS・メールマガジン発信）</li> <li>・一般新聞・雑誌等への広告掲載。</li> <li>・テレビ・ラジオなどへの話題提供・出演。</li> <li>・「横浜市歴史博物館 News」や催し物案内、パンフレット等の広報印刷物を発行する。</li> <li>・市民や利用者ニーズの把握のために、アンケートやモニタリングを行い、顧客満足度と市民ニーズを把握し、評価・改善のためのデータを作成する。</li> </ul>

#### (9) 出版

項 目	内 容
出版物発行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「横浜市歴史博物館資料目録」第26集</li> <li>・「紀要」第22号</li> <li>・「調査研究報告」第13号</li> <li>・企画展関連出版物（図録等）</li> </ul>

#### (10) 実習生・研修生の受入

項 目	内 容
中学校	中学校のキャリア教育の一環として実施される職場体験について、希望する生徒を受け入れる。
高校生	高等学校でのキャリア教育の一環として実施されるインターンシップについて、希望する生徒を受け入れる。
大学・大学院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館館務実習として学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。本年度は1年を通じた分散型の実習コースで実施する。</li> <li>・その他、インターンシップや社会教育研修などを希望する大学生・大学院生を受け入れる。</li> </ul>

## 5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

### (1) インターネットによる文化財と催事情報の発信

館蔵資料や市域指定文化財の情報を発信するほか、催事情報や図書閲覧室の蔵書検索などをウェブを通じて発信する。

(2) 映像資料の公開

常設展示室映像コーナーで、横浜の歴史や文化財に関するビデオを公開する。

(3) 文化財情報システムの保守管理

サーバーならびにグループウェアに関わる機器類の保守管理を行う。

(4) メールマガジンやSNSの活用

メールマガジンやSNSを利用し、博物館の存在をより身近に感じるような広報を行なう。

(5) インターネット催事申込システムと学校団体予約システムの運用

市民ニーズを踏まえてインターネットを利用した催事申込システムならびに、昨年度導入した学校団体予約システムを運用する。

## 6 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

歴史博物館及び野外施設の施設維持を行う。

(1) 歴史博物館及び野外の施設維持。

(2) 研修室・講堂等の貸出及び稼働率の向上。

(3) 広告料収入等の確保。

(4) 帰宅困難者一時滞在施設としての対応。

## 7 収益事業（定款第4条第2項）

(1) ミュージアムショップの経営

歴史博物館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

(2) 駐車場の運営

歴史博物館の来館者用駐車場を運営する。

(3) 飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、歴史博物館に自動販売機を設置し、飲食物を販売する。

## 3 開港資料館事業

### < 運営方針 >

開港資料館では例年通り4本の企画展を開催します。この内、3本は財団諸施設と連携して調査などを進めてきた成果を公開するものです。

第1回企画展示の「地図にない場所」は開港資料館・都市発展記念館・市史資料室で共同して進めてきた地図データベース作成作業の成果を公開するものであり、展示も3施設で連携して実施します。

また、第3回企画展示「19世紀横浜のウォーターフロント」は都市発展記念館と、第4

回企画展示「横浜の銭湯」は歴史博物館と連携して展示を開催する予定です。

一方、資料収集では昨年度、市内有数の質と量を持つ都筑区の旧家中山家の所蔵資料の蔵出し・燻蒸と借用を完了しましたが、今年度は、同家資料の整理を都市発展記念館と共同で実施していきます。

従来から積極的におこなってきた市役所・区役所や外部団体との連携事業も例年通りおこなう予定です。環境創造局とは「全国都市緑化横浜フェア 2017」に協賛して、旧館などにおいてパネル展示を開催します。また、中区とは、昨年を引き続き、開港記念会館 100 周年事業に関連して「開港記念会館記念誌」の監修と執筆を都発や市史とも協力しながら行います。さらに、全国的な歴史研究学会である地方史研究協議会の第 69 回大会が、来年度、横浜で開催されることが決定しています。同大会は財団との共催で開催することになっているため、今年度はこの準備を開港資料館が中心となって歴史博物館とともに担当します。

これに加えて、神奈川県高等学校文化連盟と共同で、高等学校社会科クラブの全国大会を、開港資料館を会場にして開催する予定です。

## 1 資料収集保管事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

### （1）資料の収集

項目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	地域の貴重な歴史資料の流出・滅失・破損を防ぐため、市民に理解と協力を求めながら、積極的に歴史資料の寄贈や寄託を受ける。特に、これまでやや収集が手薄であった大正期以降の民間が所蔵する資料の収集を都市発展記念館や市史資料室と連携しながら進める。
資料購入	近代横浜の歴史に関する国内や海外の資料、展示用資料、新聞・雑誌、文献等を広く目配りしながら購入する。
資料の撮影	原本で収集できない歴史資料を、マイクロフィルムやデジタル撮影により収集する。また、原本の保存や閲覧利用の必要上、原本資料を撮影して複製本を作成する。

### （2）資料の整理・公開

収集した歴史資料を、それぞれ資料群に応じた合理的な分類方法によって整理し、目録作成のうえ閲覧利用に供する。

閲覧室での一般利用に適さない絵図・古写真・地図などの画像資料はデジタル化し、将来のオープンデータ化に備える。

### （3）資料の保管

資料は、常時、温度 20～22 度、湿度 50～55%を保った収蔵庫で保管する。

収蔵資料のうち、劣化あるいは破損した資料は専門業者に委託して補修を行い、大型の器物等資料は、外部の資料倉庫を借り上げ保管する。また、通年、収蔵庫や展示室、閲覧室などにおける昆虫やカビ、塵芥などの測定調査を行い、資料の保存環境の維持管理を図る。

### （4）資料等の貸出

収蔵資料の普及と有効利用を図るため、類似施設等での展示会へ資料を貸し出す。

## 2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

### （1）調査研究

歴史資料の収集・整理や歴史・資料の研究、また閲覧や企画展示等公開普及事業など、資料館業務を遂行する上で必要な調査研究を行う。

項目	目的・内容	今年度の成果目標
開国・開港期の研究 (2/3年)	近代日本の主要産業だった貿易や近代化に向けての幕府や明治政府の政策についての研究	スイス人商人ブレンワルドの日記の翻刻、通商条約の締結から横浜開港までの資料の調査・分析。
横浜近代社会政治史 (2/3年)	政治外交の舞台としての横浜と周辺町村の近代化についての調査・研究	市外の歴史資料保存活用機関所蔵の横浜関連資料の調査・分析、都市を構成する職業集団（公衆浴場業）の調査・分析
横浜近世・近代社会経済史 (2/3年)	横浜開港の前提となった17～19世紀における地域的な諸条件（政治・社会・経済等）の研究	鶴見川～堀割川における東京湾沿岸地域の自然・社会環境の変貌に関する調査・分析
横浜近代文化史 (2/3年)	近代文明化の基礎となった幕末・明治の横浜の出版文化に関する研究および郷土史・学校史についての調査・研究	出版関係資料である小宮山博史氏所蔵資料の整理、郷土史家関係資料の整理、佐久間文庫の再整理とHPでの公開
横浜近代欧米関係史 (2/3年)	幕末・明治維新期を中心とする横浜の外国人社会の調査・研究—とくに幕府・明治政府と欧米列強間の外交と外国人社会への影響の調査・研究	収集済み海外関係資料の調査研究を実施し、展示や出版などの事業を通して普及を図る。また受け入れ済み海外関係資料の整理を継続し、一般閲覧公開を図る。
横浜近代アジア関係史 (2/3年)	19世紀中頃から20世紀中頃を中心に、横浜のアジア系外国人社会の調査・研究	中国語雑誌や図書などの整理、横浜華僑関係の資料調査と収集、オーラルヒストリー調査の実施。
歴史情報の集積と研究 (2/3年)	横浜の新聞・雑誌を中心とする刊行物と出版者等に関する研究、横浜に関する歴史情報の集積と公開	幕末から昭和戦前期に発行された歴史資料としての新聞・雑誌等に関わる調査・整理・研究を実施、合わせて最新の歴史情報を集積しレファレンスに活用する。
* 歴史資料の保存に関する調査・研究は、資料の保存管理、修復事業の過程で実施する。		

### （2）連携研究事業

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設との連携研究を実施する。

#### ①戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業

戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長へと至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業を、市史資料室・都市発展記念館と連携して進める。昨年度までの活動を継続し、

「高度成長期の都市横浜」に関する資料収集・調査研究を進め、その成果を展示・講座講演会などで活用できるよう準備する。

②横浜を中心とする「地図データベース」活用に関する調査研究事業

都市発展記念館・市史資料室との連携事業（2／3年）。調査研究の成果にもとづきながら、「地図データベース」の活用をはかる。また、同データベースの拡充と更新の作業を進める。

③明治維新に関する共同研究

平成31年度に歴史博物館との連携展示により開催を予定している明治維新150周年関連企画展に向けて、明治維新に関する共同研究の体制を実施する。

(3) 調査研究の委託

内部の専門職員だけでは実施出来ない調査研究を、外部の専門家団体と協働して行い、資料の収集・整理、普及などの業務に反映させる。今年度は昨年度に引き続き、下記の調査業務を実施し、昨年度、借用した都筑区川和町の旧家中山家の所蔵資料の整理と分析を外部の研究者と共同しておこなう予定である。

項目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜近現代史分野の調査研究	横浜近現代史の総合研究 (2／3年次)	①市内外旧家・機関所蔵資料の調査 ②横浜関連資料の調査研究 ③東京湾・横浜港・河川史に関する調査
横浜国際関係史分野の調査研究	横浜における華僑の教育史に関する調査研究 (2／3年次)	① オーラルヒストリー調査の実施 ② 教育関係資料の調査・収集・研究

(4) 研究紀要の発行

「横浜開港資料館紀要」第36号を発行する。(発行1, 250部)

3 常設展事業 (定款第4条第1項第1号②)

(1) 常設展示室

常設展示室1「横浜開港への道」、及び常設展示室2「街は語る－開化ヨコハマ－」の2室の維持管理を行う。(観覧者目標数 59, 100人)

(2) 旧館の活用

旧館1階の記念室(旧英国総領事執務室)等を公開するとともに、旧館記念ホールなどにおけるミニ展示の実施等、さまざまな事業により、市民が旧館ホールや記念室を横浜の歴史と文化に触れる場所として活用する。また、旧館長室の公開にむけて、どのような活用ができるのかを検討する。

(3) 屋外展示

中庭に設置している野外展示パネルは、子どもたちにも分かりやすくペリー来航から関東大震災にいたる横浜の歴史を学ぶことができる。維持管理とともに、広く広報することにより、集客に結びつけていく。また、横浜の歴史のシンボルである「たまくすの木」についても広報する。

(観覧者目標数 100, 000人)

(4) 特別資料コーナー

常設展示室に特別資料コーナーを設けて、寄贈・寄託された資料やアップトゥデートなテーマに関する資料などを随時、紹介する。

(5) 展示等事業の広報、情報発信

項 目	内 容
広報誌発行	館報「開港のひろば」第136～139号を発行する。 (発行部数：12,000～15,000部)
リーフレット類作成	開港資料館案内パンフレット・催し物案内を作成する。
広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営地下鉄駅構内の案内看板による広報（関内駅）</li> <li>・みなとみらい線駅構内の案内看板による広報（日本大通り駅）</li> <li>・新聞・雑誌等メディアへの記事掲載による広報</li> <li>・当館ホームページやメールニュース、展示情報掲載サイト等への情報掲載による広報</li> <li>・市内観光案内所、ホテル、横浜市PRボックス、大学等へのチラシ配布</li> <li>・学校ポストを利用した市内小中学校、高校への広報</li> </ul>
夜間開館	館のイベントや近隣のイベントと合わせて、午後7時までの開館延長を行う。(年10日程度)

4 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

(1) 企画展の実施

企画展名称(仮称)／開催期間	観覧者目標数	目的・内容
<b>「地図にない場所」</b> 平成29年4月26日(水) ～7月17日(月・祝日)	18,100人	横浜村、吉田川、元町百段などの現在の地図からは消えた場所の消えた理由を解き明かしながら、幕末開港から急速に発展を遂げた横浜の歩みを、地図資料を中心に明らかにしていく。 <b>都市発展記念館、市史資料室との3施設連携展示「横浜地図三昧」</b> の主要企画。
<b>「横浜の欧米外国人社会」</b> 平成29年7月20日(木) ～10月22日(日)	16,000人	幕末に開港した横浜には、欧米を中心とする諸外国からさまざまな人びとがやって来て暮らすようになり、自分たちの社会を築いていきました。横浜に根付いた彼らの社会の諸相を、館蔵資料を中心に紹介する。
<b>「19世紀横浜のウォーターフロント」</b> 平成29年10月25日(木) ～平成30年1月28日(日)	14,000人	横浜港の成立と発展を支えた後背地域である鶴見川～堀割川の東京湾沿岸地域の、19世紀における変化を紹介する。
<b>「横浜の銭湯」</b> 平成30年1月31日(水) ～4月22日(日)	11,000人	都市横浜を構成する職業集団(公衆浴場業者)の存在に着目しつつ、市域の銭湯および温泉の歴史を明らかにしていく。 <b>歴史博物館との連携展示。</b>
企画展関連事業	400人	上記企画展の開催にあわせ、関連事業として講座・

		講演会・展示解説等を実施する。
--	--	-----------------

(2) 講座・講演会ほか

項目	参加者目標数	目的・内容
市民団体との共催による講座等の実施	のべ100人	横浜郷土史団体連絡協議会等の市民団体と共催する講座等を実施する。
大学・研究機関等との連携事業	のべ20人	大学・研究機関等の見学・利用に対応するとともに、大学等のインターンシップの受け入れを行う。
「子どもアドベンチャー2017」への参加	10人	横浜市が取り組んでいる児童を対象とした夏休み企画への参加。 8月中旬
<b>「開港記念日」市民優待デー ワークショップ</b>	のべ100人	6月2日の開港記念日を中心として、ワークショップを開催し市民の参加をはかるとともに、同時期に開催される都市発展記念館・ユーラシア文化館のワークショップと広報面も含め、協力・連携する。

(3) 出版物の作成

資料収集や整理、調査研究、企画展など資料館事業の成果を広く市民に紹介するため、各種出版物を作成し頒布する。また、需要の多い在庫切れ出版物を増刷する。

<出版予定>

- ① 広報誌 横浜開港資料館報「開港のひろば」第136～139号  
(発行部数：12,000～15,000部、各号の発行部数は入館者の目標数によって変更する。)
- ② 「横浜開港資料館紀要」第36号 (発行部数：1,250部)
- ③ 企画展関連の出版物・印刷物の発行

(4) 市民協働・学校連携・博物館連携 他

(ア) 横浜郷土史団体連絡協議会の活動を支援する。

郷土史に関心を持つ団体が情報交換し、広範な活動ができるように、当館が中心となり設立した横浜郷土史団体連絡協議会(現在、市内18区約51団体)とともに、協働事業(講座・研修会等)を展開していく。事務局は当館と歴史博物館の職員が担当する。

(イ) 学校・研究団体、NPO法人、企業・商工団体、ガイド協会などと協働事業を行う。第1回企画展示では、5月下旬に開催される横浜セントラルタウンフェスティバル Y158 に都市発展記念館・ユーラシア文化館とともに参加し、山下公園通り会、元町SS会、横浜中華街発展会、馬車道通り会などの地元商業団体と連携し、資料館活動への理解促進と来館者増をはかる。

(ウ) 各施設で様々な学年を受け入れられるような体制を構築する一環として、当館では「ペリー来航」と「横浜開港」を主要な題材として、市立小学校6年生の社会見学・展示見学の受け入れを検討する。

(エ) 主要な高等学校との連携として、神奈川県内の公立高等学校の社会科関連のクラブによって構成される神奈川県高等学校文化連盟(神奈川県高文連)の社会科専門部会と提携することにより、展示見学の受け入れ、会合等における会場の提供、研究活動への助言等を進めていく。

(オ) 従来より行っている「中区歴史の散歩道」の執筆等、市役所や中区をはじめとする各区との連携・協力を進めていく。環境創造局が実施する「全国緑化フェア」については同局が開催する赤レンガ倉庫の展示会の企画に協力するとともに、旧館ホールで「緑化フェア」関連パネル展示を開催する。また、中区が開催する開港記念会館 100 周年事業については開港記念会館記念誌に原稿を執筆する。

(カ) 年度後半から実施予定の環境創造局がおこなう緑化フェア関係事業に、都市発展記念館・ユーラシア文化館とともに協力する。

(キ) 首都圏形成史研究会などの学術団体と連携するとともに、本財団の共催事業である地方史研究協議会の第 69 回大会（仮称・神奈川大会／平成 30 年 10 月予定）の準備を進める。

#### (5) 外部組織への資料提供および助言・監修

(ア) マスコミ等への企画協力・情報提供

新聞社・テレビ局等が企画する記事・番組への監修協力や情報提供を行う。

(イ) 助言・監修

公共施設や企業へ資料を提供するとともに、その作成物について助言・監修を行う。

中区役所が実施する横浜開港記念会館建築 100 周年記念誌の監修・執筆協力

#### (6) 資料館館務実習

学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。受入数：10 人程度

#### (7) 各種情報のホームページなどによる発信等

(ア) 画像資料等のデジタル化等

古写真・絵葉書を中心にした画像資料のデジタル化や、収蔵資料のデータベース作成を進める。

(イ) ホームページによる情報提供

ホームページの内容・体裁の改善を進め、新規閲覧公開資料や開館時間、アクセス、企画展示や講座、出版など最新の資料館情報を提供する。

(ウ) ホームページによる市民ニーズの把握

ホームページのアクセス形態や内容などを分析して市民の関心やニーズを把握し、事業や企画の改善に反映させる。

アクセス目標件数 120,000 件

(エ) 電子メールによる情報発信

企画展示、講座などの催し物情報を希望者に電子メールで発信する。 発信先約 1,000 件

(オ) O P A C による蔵書検索機能の充実

(カ) 地図の共同データベース化

都市発展記念館・市史資料室と共同で各施設が所蔵する地図のデータベース化を進め、3 施設が合同で地図を事業に活用できる体制の構築を目ざす。すでに昨年度までに、約 14,800 点の地図のデータを入力し、また検索用簡易デジタル画像の撮影を開始した。

#### (8) 複製資料の提供

市民や地方自治体、学校、企業（出版社、新聞社、テレビ局など）の求めに応じ所蔵資料の複製を提供する。提供の方法は、複製フィルムをデジタル化し CD-ROM で提供する。これにより資料情報の発信を促進する。

利用目標件数 500件 / 利用目標資料点数 1,500点

#### (9) 資料閲覧室の運営

閲覧室において、収蔵資料を一般閲覧に供し、専門職員によるレファレンスを充実させるとともに、資料のコピーサービスを行う。閲覧室の活用について小・中・高校の社会科研究会などに情報提供を行う。

閲覧室利用者目標数 2,800人

### 5 情報事業 (定款第4条第1項第1号②)

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するための情報システム機器類の運用・保守を行う。

### 6 施設維持事業 (定款第4条第1項第1号③)

開港資料館の施設維持を行う。また、敷地内に、全国都市緑化よこはまフェア開催に伴う植栽の増補を市役所の関係部局と協力して実施する。

### 7 収益事業 (定款第4条第2項)

#### (1) ミュージアムショップの経営

開港資料館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要、関連図書、グッズ等の販売と各企画展示にあわせた商品展開、売り場作りを行う。また、企画展示関連の出版物や絵葉書の作成を行う。商品は通信販売でも取扱い、積極的に販路を拡大する。

#### (2) 飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、開港資料館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

#### (3) 喫茶室の運営

来館者の利便を図るため、付属棟に喫茶室を設け、その運営を専門業者に委託する。

## 4 都市発展記念館事業

### < 運営方針 >

都市発展記念館では、今年度も5月下旬から6月上旬にかけて、横浜セントラルタウン・フェスティバルY158や開港記念日など、地域や市のイベントに合わせて無料開館や夜間開館をおこない、広く館をアピールするとともに、館への親しみを増す機会として活かしていきます。また、昨年度から強化した財団諸施設や市役所・区役所との連携事業を今年度も継続しておこない、第1回企画展示では、開港資料館や市史資料室と共同で実施してきた地図データベースの作成作業の成果を公開する展示を開港・市史と連携して開催します。また、第2回の企画展示も開港資料館・市史資料室との連携展示です。市役所や区役所との連携事業では、環境創造局が実施する「全国都市緑化よこはまフェア」に協力し、ギャ

ラリーで西洋公園の歴史についてのパネル展示を開催するほか、中区が実施する開港記念会館 100 周年記念事業に際して刊行される記念誌の執筆をおこないます。

資料収集については、昨年度に引き続き、ホテル・ニューグランド所蔵資料などの整理や調査、近代建築関係遺物のデータベース化をおこないます。また、都筑区川和町の旧家である中山家資料の整理について開港資料館と共同で実施します。

## 1 資料収集保管事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

昭和期を中心に、都市横浜のあゆみに関する資料を収集するとともに、ホームページを利用した画像資料の公開を進める。

### （1）資料の収集と保管

項目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	昭和期を中心に「都市形成」、「市民の暮らし」、「横浜の文化」に関する資料が散逸しないように、開港資料館・市史資料室と連携して地域に残る資料を発掘し、積極的に寄贈・寄託を受け入れる。
資料購入	昭和期を中心に「都市形成」、「市民の暮らし」、「横浜の文化」に関する資料を収集する。
複製による資料収集	原資料で収集できないものをフィルム撮影等により収集する。
資料修繕	傷みの激しい資料は専門業者に委託して修復を行う。
資料の保管	資料は温湿度を一定に保った収蔵庫で保管する。収蔵庫に収まらない器物等の大型資料は、外部倉庫を賃借して保管する。所蔵資料の情報はデータベースに入力し管理する。
環境調査	保存環境を良好な状態に保つため、展示室・収蔵庫の環境調査をユーラシア文化館と共同して定期的に行う。また資料保存に関する最新の知見を入手することに努める。

### （2）資料の整理・公開

収集した資料を、それぞれ資料群に応じた分類方法によって整理し、目録を作成する。今年度は都筑区川和町の旧家である中山家資料を、開港資料館と共同で整理にあたる。また戦後期の写真コレクションについて、公開に向けた整理を進める。

館蔵資料から絵葉書・古写真・ちらしなど画像資料のデジタル化を進め、ホームページ上の「絵葉書データベース」や「横浜歴史情報マップ」などで積極的に公開する。

### （3）複製資料の提供

複製資料（所蔵資料の画像データ）を提供し、出版・放送・展示や市民の学習など、各種用途での利用に応じる。

## 2 調査研究事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号①）

昭和期の横浜の歴史を中心に調査研究をおこない、その成果を事業に活用する。（1）は各テーマにもとづく基礎資料の調査・収集や市内の遺跡・遺構の基礎データの蓄積を目的とし、（2）は市史資料室・開港資料館との施設間連携により調査研究を深めることを目的とし、その成果は展示や出版事業で活用する。

(1) 調査研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜都市形成史 (2 / 3 年次)	関東大震災後から高度経済成長期までの昭和期を中心に、現代都市横浜が形成される過程を、都市政策・都市計画（港湾計画）・都市交通などの観点から明らかにする。	都市交通資料について、(1)軌道交通＝市電関係等所蔵資料の整理と分析、(2)道路交通＝郊外幹線道路関係等資料の所在調査と収集・分析を継続する。成果は平成 30 年度企画展にて公開する。 飛鳥田市政期に進められた六大事業の一つである臨海都心部整備事業について、都市計画関係資料を収集し、分析をおこなう。成果は今年度の企画展で公開する。
	市域での近代建築および出土遺物の調査を通じて、近代遺跡の観点から都市横浜の特性を明らかにする。	採集地点ごとの出土遺物のデータベース化を進め、これまで蓄積してきた資料情報を資料集として発行する。
横浜都市経済・産業史 (2 / 3 年次)	昭和期を中心に下記の 3 つの視点から現代都市横浜の経済（産業）構造を明らかにする。 (1)商業地区（商店街）の形成と変容について (2)観光および都市イメージの形成と変容について (3)工業地帯の形成と変容について	三つの繁華街（中心商店街）[伊勢佐木町、横浜駅西口、馬車道]を対象に連携研究会にて資料調査を行い、今年度も引き続き統計データの収集と分析をおこなう。 旅行・観光関係資料（個人コレクション、ホテルニューグランド所蔵資料など）の収集・整理および映像資料の所在調査をおこなう。（継続）
横浜市政史／都市生活・文化史 (2 / 3 年次)	・昭和期の横浜市政に関する資料の調査・研究を行い、政治史的観点から市政史の掘り下げを行う。 ・昭和期における横浜の都市生活の様相を把握するために資料の収集・調査を行い、市民生活の実態を明らかにする。	前年度に開催した企画展の調査成果をもとに、戦後横浜の社会福祉事業関連の文書資料の調査および、関係者に対する聞き取り調査を行い、調査結果を分析してその成果を紀要等の出版物で報告する。

(2) 連携研究事業

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設との連携研究を実施する。

①横浜を中心とする「地図データベース」活用に関する調査研究事業

開港資料館・市史資料室との連携事業（3 カ年）。調査研究の成果にもとづきながら、「地図データベース」の活用をはかる。また、同データベースの拡充と更新の作業を進める。

②戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業

戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長へと至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにす

る調査研究事業を、市史資料室・開港資料館と連携して進める。昨年度までの活動を継続し、資料収集・調査研究の成果を展示・講座講演会などで活用できるよう準備する。

### (3) 研究紀要の発行

調査研究成果をまとめて『横浜都市発展記念館紀要』第14号を発行する。

(発行予定1,000部)

## 3 常設展事業 (定款第4条第1項第1号②)

(1) 常設展示の運営と展示設備の維持管理をおこなう。(観覧者目標数 48,000人)

(2) 「旧市外電話局」第一玄関の積極的な公開・活用をおこなう。

ユーラシア文化館と連携して、歴史的建造物としての魅力を残す旧第一玄関を活かした展示・集客事業を展開する。

(3) 常設展示室の一面を使って、新収蔵資料を中心としたテーマ展示を開催する。

(4) 常設展示のリニューアルに向けて内容を検討する。

## 4 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

横浜の都市形成の歴史をより深く理解するための企画展示や講座を実施します。また、市内小学校団体の誘致や中学校の職場体験の受け入れなど、学校連携事業にも取り組みます。

(観覧者目標数 15,500人)

(1) 企画展

展示名称(仮称)／開催期間	観覧者目標数	目的・内容
「ようこそ！横浜地図ワールドへ —まちの移り変わりが見えてくる」 平成29年4月22日(土)～ 7月2日(日)	7,500人	横浜を対象につくられてきたさまざまな地図を通じて、横浜のまちの移り変わりを見ていくとともに、その地理への理解を深める。 開港資料館・市史資料室との連携展示
「横浜のウォーターフロント 横浜 ドックから横浜博覧会まで」 平成29年10月7日(土)～ 平成30年1月8日(月・祝)	8,000人	六大事業の一つとして整備が始まったみなとみらい21地区の歴史を、明治期の横浜船渠の開設から平成の横浜博覧会までたどり、未来のウォーターフロント像をさぐる。 開港資料館・市史資料室との連携展示

(2) 普及啓発

項目	参加者目標数	目的・内容
月イチ講座	各回30人	企画展未開催期間を利用して、新収資料や最新の調査成果などを紹介する講座を1階ギャラリーで開催する。
1階ギャラリーの活用	各回ごと設定	1階ギャラリーを利用して、写真パネル展などの集客事業を開催し、新規来館者層の獲得につなげる。
ワークショップの開催	各回30人	1階フリースペースを活用し、市民ボランティアと協働しながら、企画展や昭和の時代に関連したワークショッ

		プを実施する。
「子どもアドベンチャー2017」への参加	10人	横浜市が取り組んでいる児童を対象とした夏休み企画に参加する。

(3) 集客イベント

項 目	内 容
「開港記念日」市民優待デー	6月2日の開港記念日を無料開館日とし、学校が休みとなる小学生向けのワークショップなどを実施する。
夏休みイベント	ユーラシア文化館との共催で、夏休み期間に無料開館日を設けて、子ども向けワークショップを中心としたイベントを実施する。
開館祭	ユーラシア文化館との共催で、3月15日の開館記念日前後に無料開館日を設けて、市民感謝イベントを実施する。



「開港記念日」ワークショップ



夏休みイベント

(4) 市民協働

項 目	内 容
ボランティアとの協働	企画展開催中の週末および夏休みイベントや開館祭の機会に、市民ボランティアと協働しながら、ワークショップを実施する。

(5) 地域・行政との連携

項 目	目的・内容
地域事業者との連携	日本大通り界隈の事業者が加盟する日本大通り活性化委員会に参加し、日本大通り周辺の賑わい創出および都市発展記念館・ユーラシア文化館への観光客の誘致を図る。また、5月下旬に開催される横浜セントラルタウン・フェスティバル Y158 に開港資料館とともに参加し、山下公園通り会、元町 SS 会、横浜中華街発展会、馬車道通り会などの地元商業団体と連携して、地域の賑わいの創出と来館者増を図る。
区役所・市役所が実施する事業への協力	・中区に関する歴史資料を紹介する記事を「広報よこはま なか区版」に開港資料館と共同で連載する。(昨年度より継続)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中区役所が実施する横浜市開港記念会館 100 周年事業に、記念誌の監修・執筆などの形で開港資料館・市史資料室と共同で協力する。</li> <li>・市環境創造局が実施する「全国都市緑化よこはまフェア」の関係事業に、開港資料館と共同で協力する。</li> </ul>
--	--

#### (6) 学校連携

項 目	目的・内容
市内学校団体見学の受け入れ	小学校 4 年生を対象に、「吉田新田とその後」をテーマにした解説つき展示案内を実施し、市内学校団体を誘致する。
教員向け研修の企画	小学校の授業内容に即した教員対象の研修を企画、実施する。
学校連携事業	財団エドゥケーター、教育委員会指導主事を通じて教育現場のニーズを把握し、教員、生徒に向けた情報発信を行う。



職場体験



教員向け研修会

#### (7) 広報活動

項 目	内 容
広報誌発行	『ハマ発Newsletter』の編集・発行 (第 28～29 号、各 10,000 部)
印刷物作成	企画展示案内 (ポスター・チラシ)、「催し物案内」(リーフレット)の作成
ホームページの運営	インターネットによる最新情報の案内、展示内容の紹介、所蔵資料の画像データの公開など
メールニュースの配信	希望者に最新情報の案内を電子メールで配信する。単なる情報の羅列にとどめずに、事業担当者がわかりやすく事業について解説・案内する。
「ハマ発ブログ」の運営	当館職員の日常的な活動 (展示準備や調査研究の余話など) を、ブログ形式で発信し、館に親しみを持ってもらう。
マスコミ対応	・放送 (テレビ、ラジオ等)、新聞・雑誌 (タウン誌などを含む) の取材対応と情報の提供

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィルムコミッションへの協力</li> <li>・広告の掲出（新聞・雑誌、地下鉄車内など）</li> </ul>
外部機関との提携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道駅構内へのポスター掲出、チラシ等配置</li> <li>・観光案内所、ホテル、旅行代理店などへの印刷物配布</li> <li>・観光・地域振興等関連団体への参加 日本大通り活性化委員会での活動、Open! Yokohama、横浜セントラルタウン・フェスティバルY158、フォトヨコハマなどへの参加</li> </ul>
市民ニーズの把握	実施事業ごとにアンケート調査を行い、利用者の満足度と市民ニーズの把握を行う。
夜間開館	館のイベントや近隣のイベントに合わせて、午後7時までの開館延長を行う。（年10回程度）

#### （8）実習生・研修生の受け入れ

項 目	内 容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。4名。
職場体験	市内中学生の職場体験の受入。

## 5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

### （1）収蔵資料等データ入力

収蔵品、寄贈・寄託資料のデータベース化を図る。

### （2）ホームページを利用した資料公開

ホームページ上で、写真・絵葉書などの画像資料を公開する。

ホームページアクセス目標件数 30,000件

## 6 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

横浜都市発展記念館の施設維持を行います。

横浜市の建物中長期寿命化計画の中で、外壁及びエレベーター塔の修繕を行う。

## 7 収益事業（定款第4条第2項）

### （1）ミュージアムショップの経営

都市発展記念館・ユーラシア文化館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

### （2）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、都市発展記念館・ユーラシア文化館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

## 5 ユーラシア文化館事業

### < 運営方針 >

ユーラシア文化館は、市民の方にユーラシア文化への理解を促進し、国際文化都市横浜の発展に寄与するために、調査研究、展示、出版、講演会、イベントなどを実施しています。

今年度、常設展示室では、スポット展示を実施してまいります。企画展は、他の博物館や大学と連携・協力して、タイの山地民、東西ユーラシアのランプに関わる展示を開催します。調査研究では、館の基幹となる資料の調査・研究をはじめ、引き続き歴史博物館の協力を得て、ユーラシア概念を深めていく研究を進めてまいります。

学校との連携では、定着した4年生の学校団体見学に加え、ゲルやモンゴルの部屋コーナーを有効に活用し、モンゴル童話を教材にしている低学年の見学や教師向けの講座を推進してまいります。また常設展示を活用し、美術・歴史関係で小・中学校との連携を進めます。

普及啓発事業では、1階のフリースペースや中庭や旧第一玄関などを活用し、講座やミニ展示、ワークショップ、写真展、イベントを開催し、市民の方が親しみながらユーラシア文化の理解を深める場としてまいります。これらの事業展開にはボランティアに参加を求め、協働して当館のミュージアムシーンを創出します。

### 1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

#### (1) 資料収集・保存

項目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	市民に理解と協力を求め、資料を流出・滅失・破損から守る。
資料購入	展示で活用しうる資料や、調査研究に資する資料を収集する。
資料の保管	資料は温湿度を一定に保った収蔵庫で保管する。所蔵資料の情報はデータベースに入力し管理する。
資料修繕	文献・資料の修復を行う。
環境調査	保存環境を良好な状態に保つため、展示室・収蔵庫の環境調査を都市発展記念館と共同して定期的に行う。また資料保存に関する最新の知見を入手することに努める。

#### (2) 資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討、整理し、館蔵資料データベースを拡充する。

#### (3) 文献資料の整理

考古・美術資料と並ぶ所蔵資料の柱である文献資料の公開に向け、整理・分類を継続する。整理が終わったものから順次公開していく。

項 目	目的・内容
バジル・グレイ旧蔵書・洋図書・洋雑誌・和図書	蔵書の分類を継続する。
和雑誌・中国語図書	今年度は中国語図書の書誌データも入力し、データベースを構築する。インターネットでの蔵書検索（OPAC公開）を拡充する。

## 2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

### （1）調査研究

項 目	目的・内容	今年度の成果目標
収蔵資料と関連資料の研究 (2/5年)	江上コレクションの考古・美術・民族資料及び文献資料の調査を行う。	①館蔵イスラーム・ガラスや陶器などイスラーム時代の資料に関連した資料調査を行う。 ②メソポタミアの円筒印章に関して資料整理を行う。 ③関連する参考文献を収集する。
横浜市内にあるユーラシア関連資料の調査・研究 (2/5年)	横浜市民が保管するユーラシア関連資料について調査し、データを蓄積・公開する。	①これまでに市民から寄贈を受けたユーラシア関連画像データをデジタルアーカイブズで公開する。 ②市民から寄贈を受けた中国古鏡関連資料に基づいて構築・公開した銘文データベースを拡充する。
遊牧世界の物質文化の研究 (2/5年)	国内にある遊牧民の資料（考古資料・民族資料）について調査し、日本にはない遊牧文化について情報を発信し、市民の異文化理解に資する。	①外部研究会に参加し研究を深める。 ②研究成果の反映を月イチ講座等で発信する。 ③イベントに遊牧文化紹介を組み込み、子どもたちの異文化理解を促進する。
ユーラシア概念をめぐる研究(2/5年)	「ユーラシア」の概念や、ユーラシア諸地域の文化交流について研究会を開催し、その理解を深める。 <b>歴史博物館との連携事業</b>	①両館学芸員に加え、外部の研究者も招聘し、3回程度の研究会を開く。 ②研究会の成果を紀要等に公開する。
バリの民族衣装に関する研究(2/2年)	民族衣装だけでなく生活習慣や文化などの調査を行い、バリにおける伝統文化の知られざる一面を探る。	①個人コレクションの概要を把握する。 ②バリに関する文献資料等を収集し、知識を深める。 ③研究成果の公開方法（展示、講座講演会、出版）を計画する。
お茶の展開ルートに関する研究(2/3)	当館所蔵お茶関連資料に関連し、チベット・モンゴルにおけるお茶のあり方、	①当館所蔵お茶関連資料を整理・記録する。

	それが伝わったルート、国内所蔵の関連資料について調査する。	②チベットおよびモンゴルのお茶に関する先行研究を調査する。 ③関連資料所蔵機関を調査する。
「唐物」と東部ユーラシアに関する研究 (2/3)	日本にもたらされた古代から中世の「唐物」(海外文物)の特質と機能、それが渡って来たルートやネットワークなどを探る。	① 外部の研究者も交えた研究会を3回程度開催する。 ② 「唐物」に関する基礎資料を収集する。
平成29年度以降開催予定の企画展調査	平成29年度以降の企画展開催のために資料調査などを行う。	

## (2) 資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討し、整理を行う。

## 3 常設展事業 (定款第4条第1項第1号②)

- (1) 横浜ユーラシア文化館の常設展示室の維持管理を行う。(観覧者目標数 40,000人)
- (2) ニュース性、企画展示とのつながり、関連機関との連携、市の施策を考慮に入れた展示替えを行う。
- (3) 学芸員による解説(和英)を行う。実施は予約制とし、市民・利用者の希望に沿った解説内容となるよう努める。
- (4) 展示室内・ライブラリーでの「利用者・学芸員双方向コミュニケーション」の充実を図る。
- (5) クイズラリーやスケッチなど常設展示室でのミニイベントを企画する。
- (6) 常設展示室を活用した美術・美術史関係で小・中学校との連携を試行的に行っていく。また、グローバル人材育成として、教育委員会の進める高校生のグローバル人材育成プログラムに協力していく。
- (7) 月イチ講座に関連した資料の展観、研究成果としての収蔵資料の特別公開、市民寄贈資料のお披露目展示、大学教育と連携した資料展示など、常設展示室を利用したスポット展示を行う。  
冬季は、「自鑪亭至烏斯蔵程站輿図」を展観予定。
- (8) 都市発展記念館と連携して、歴史的建造物としての魅力を残す旧第一玄関、新たに整備した中庭などを活かした企画を実施し、常設展示室の集客につなげる。

## 4 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

- (1) 企画展 (観覧者目標数 15,000人)

企画展名称(仮称)／開催期間	観覧者目標数	目的・内容
企画展「タイの山地民」(仮) 平成29年7月15日(土) ～9月24日(日)62日間	7,500人	日本・タイ修好130周年を記念して、1960-70年代に西北タイで収集された当館所蔵民族資料を、同時期収集・南山大学人類学博物館所蔵と併せて展示公開する。 ※南山大学人類学博物館・ヤオ族文化研究所と連携・協力

企画展「魅惑のランプ」 平成30年1月20日（土） ～4月1日（日）62日間	7,500人	横浜市民のランプコレクションを軸に、古代から近代までの東西ユーラシアの明かりの様相を紹介する。 ※古代オリエント博物館と連携・協力。
企画展関連ギャラリートーク	各回10人	企画展に対する興味と理解を深めることを目的として、展示解説を行う。無料

(2) 講座・講演会

項目	内容
企画展に関連した講座・講演会	企画展「タイの山地民」、「魅惑のランプ展」に関連した講座、講演会を計画する。
月イチ講座	市民が参加しやすいミニ講座で研究成果を定期的に紹介する。都市発展記念館との共同事業。



ギャラリートーク



月イチ講座

(3) 普及啓発

項目	参加者目標数	目的・内容
ゲルに集まれ	2回実施、各回500人	モンゴルの伝統的な移動住居である「ゲル」を利用し、住居の組立・解体、民族衣装の試着、馬頭琴の演奏会などを通し、モンゴル民話を学ぶ小学2年生をはじめ、多くの市民に異文化を体感し、理解を深めてもらう。
ワークショップの開催	各回30人	1階フリースペースを活用し、企画展や館蔵品に関連したもの作りワークショップを実施。参加者には市民ボランティアが対応する。
写真展・写真パネル展の開催	企画展来館者数	旧第一玄関などを会場に、企画展等に関連した写真展などを開催し、ユーラシアへの興味を定着させる。
横浜市職員向けの研修	各回30人	市職員を対象に、館の事業・活動に対する理解を深め、今後の業務に活用できるよう、研修会を実施（関係局との連携）。

常設展関連ギャラリートーク	各回20人	常設展に対する興味と理解を深めることを目的として、展示室内で作品解説を行う。予約日に実施。無料
近隣企業との連携		横浜中華街の店舗とのタイアップ企画で、館の活動内容とのコラボなどを実施。
「子どもアドベンチャー2017」への参加	10人	横浜市が取り組んでいる児童を対象とした夏休み企画への参加（ワークショップ） 8月中旬

#### (4) 集客イベント事業

項 目	内 容
ミニコンサート・大道芸	ユーラシア諸地域の文化に親しめるような民族音楽のミニコンサートや大道芸を開催。企画展開催時または感謝祭などのイベントの一環として実施する。
「開港記念日」市民優待デー	6月2日の開港記念日に無料開館し、学校が休みとなる小学生向けのワークショップなどを実施する。
夏のイベント	都市発展記念館と連携して、夏休みに子ども向けのワークショップを主としたイベントを開催する。
開館祭	都市発展記念館との連携事業として、3月15日の開館日前後に全館無料の感謝イベントを実施し、市民サービスを供する。
国際フェスタなど近隣イベントへの参加	秋に開催される国際フェスタなどに参加すると同時に、中庭にゲルを建てて、集客に努める。

#### (5) 市民協働

項 目	内 容
ボランティアとの協働	従来のワークショップ・各種イベント等に加え、市民ボランティアが幅広く館活動に協働で参加できるように検討・試行を行う。



モンゴルのゲルの解説



国際フェスタへの参加

#### (6) 近隣施設との連携

項 目	目的・内容
新聞博物館・放送ライブラリーとの連携	隣接する横浜情報文化センター内の新聞博物館・放送ライブラリーと、広報やイベントなどの事業連携をおこない、来館者の相乗効果を図る。

日本大通り活性化委員会への参加	日本大通り界隈の事業者が加盟する日本大通り活性化委員会の事業に参加し、日本大通り周辺の賑わい創出および都市発展記念館・ユーラシア文化館への観光客の誘致を図る。
-----------------	---

(7) 学校連携・大学連携

項 目	内 容
博物館利用の促進	小学校団体の見学利用を推進する。モンゴル童話（2年生国語科単元）の時代的・社会的な背景や吉田新田とその後の発展（4年生社会科単元）を素材とする学校との連携。 歴史関係で小・中学校との連携も行っていく。
教員向け研修の企画	小学校の授業内容に則した教員対象の研修を企画、実施する。
大学教育連携展示	大学所属の研究者と協働し、講義などに合わせた形で小規模な展示を実施する。

(8) 広報出版・情報発信

項 目	内 容
出版物発行	・研究紀要6号の発行（800部） ・館報「News from EurAsia 横浜ユーラシア文化館ニュース」第27、28号を発行する。（各10,000部）
リーフレット類作成・配布	横浜ユーラシア文化館案内パンフレットを配布し、催し物案内を作成・配布する。
ホームページの運営	ホームページでの最新情報、展示内容、資料解説、イベント等の案内、および、資料データベースの拡充、OPAC検索、全国漢籍データベースへのリンク。
メールニュース配信	最新情報を確実に提供するため、登録された希望者にメールニュースを配信する。
その他の広報	・日本大通り駅改札外掲示板へのポスター掲出 ・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 ・インターネットでの施設案内 ・テレビ、ラジオ等放送媒体による施設案内 ・フィルムコミッションへ積極的に協力し、当館を撮影場所としてPR ・タウン情報誌、旅行情報誌への施設案内掲載 ・市内観光案内所、観光施設へのチラシ訪問配布 ・スタンプラリー等による集客 ・横浜フランス月間2017参加
市民ニーズの把握	実施事業でアンケートを行い、満足度調査と協働に対する市民ニーズの把握を行う。
夜間開館	館のイベントや近隣のイベントに合わせて、午後7時までの開館延長を行う。（年10日程度）

学校連携事業	財団エドゥケーター、教育委員会指導主事を通じて教育現場のニーズを把握し、教員、生徒に向けた情報発信を行う。
--------	---

#### (9) 実習生・研修生の受け入れ

項 目	内 容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。約10名。
社会研修	大学のインターンシップなどの受入
職場体験	市内中学生の職場体験の受入
大学学外研修	東洋史専攻の学生などを対象に、大学のカリキュラムに則した形の学外実習や研修を積極的に受け入れていく。

### 5 情報事業 (定款第4条第1項第1号②)

#### (1) 収蔵資料等データ入力

各施設の収蔵品、寄贈・寄託資料及び市域指定文化財のデータベース化を図る。

#### (2) ホームページを利用した市民ニーズの把握

ホームページ上で、施設に対する市民のニーズを把握する。

ホームページアクセス目標件数 80,000件

### 6 施設維持事業 (定款第4条第1項第1号③)

ユーラシア文化館の施設維持を行う。

### 7 収益事業 (定款第4条第2項)

#### (1) ミュージアムショップの経営

都市発展記念館・ユーラシア文化館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

#### (2) 飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、都市発展記念館・ユーラシア文化館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

## 6 三殿台考古館事業

### < 運営方針 >

国指定史跡として保存されている三殿台遺跡は、学術的価値が高いだけでなく、市民参加の発掘調査の先駆けとして全国的に知られています。当館は、縄文時代から続く歴史の証人である遺構と出土品等を、適切に保存・管理して未来へ継承するための拠点となっています。

市民や来訪者にその意義を伝え、理解を深めるために、案内解説や体験学習などの活動を展開しています。

今年度も、収蔵された出土品の再整理や遺跡のガイドのために、市民ボランティアを養成するなど、地域や市民と協働で事業に取り組んでいきます。

また、財団内の他施設との連携を強化していきます。具体的には、歴史博物館や埋蔵文化財センターとの企画展示や講座、共同研究などにおいて連携を図り、各施設の学芸員が持つ能力を相互に生かしあって、より多くの成果をあげ、なおかつその成果を複数施設の普及啓発事業に展開できるようにします。

また、平成 29 年は、三殿台考古館開館 50 周年を迎える年です。そのため、三殿台遺跡のもっとも栄えた時期である、弥生時代中期の稲作導入期をテーマにした企画展とそれに関連する様々なイベントを、歴史博物館と協働で開催します。(歴史博物館では、隣の大塚・歳勝土遺跡公園がちょうど開設 20 周年を迎えます)

さらに、昨年度までの毎月第 3 水曜日の休館日を、来館者の少ない毎週月曜に変更し、休館日を増やすことによって、開館日の出勤体制の充実化を図り、来館者へのサービス向上を図ります。なお、昨年度は老朽化した事務棟を閉鎖し、事務機能を展示室に、体験教室機能を屋外パーゴラに移しました。その結果、展示室のすぐ脇に事務室があり、職員がいるため、来館者とのコミュニケーションの機会が大幅に増え、また屋外での体験教室も、三殿台の恵まれた景観も手伝って、従来同様、利用者から好評を博しています。新年度も、サービス向上に向け、様々な工夫をしていきます。

## 1 資料収集保管・調査研究事業 (定款第 4 条第 1 項第 1 号①)

### (1) 保管資料再整備事業

#### (ア) 出土品保管再整備事業

調査後収蔵されたままになっている出土品についての整理作業、現在展示中の遺物の補修・着色、新たな復元等を継続して行い、資料の保全と活用を図る。三殿台遺跡と周辺部遺跡関係資料の保管スペースを確保し、保管状況を改善する。

#### (イ) 記録資料のデジタル化事業

記録資料の保存と活用を図るため、写真や測量図面のデジタルデータ化を実施する。整理後、災害に備える意味も含めてデジタルデータを横浜市歴史博物館と埋蔵文化財センターに分散保管する。本年度も劣化が著しい写真資料を優先し、埋蔵文化財センターと連携して記録資料のデジタル化を継続する。

### (2) 調査研究事業

#### (ア) 三殿台遺跡出土品の資料化。

三殿台遺跡出土資料のうち、弥生時代中期後葉の遺物と遺構について、再整理報告を行う。この作業は、今年度秋季に横浜市歴史博物館と共同で開催が予定されている企画展に連動させるものとする。

#### (イ) 三殿台考古館収蔵資料の活用。

館収蔵資料を展示等で公開・活用するほか、貸出し等も行う。

#### (ウ) 原始技術の復元的研究

原始時代の諸技術を実験考古学的な視点・方法によって復元する。その結果を体験教室に生かしたり、その過程のデータ・映像などを企画展等に生かすなど、多方面の活用を図る。

なお、二年目となる今年度は、秋季企画展と連動させた、弥生時代のものづくりをテーマとする。

## 2 常設展事業 (定款第4条第1項第1号②)

### (1) 常設展事業

常設展示室の維持管理を行うとともに、展示内容の充実を図り、定期的な展示品の入れ替えを行う。来館者にわかりやすい展示解説を実施する。なお、28年度に展示室の約半分に事務機能を移転させたため、来館者との接触機会が多くなった。なるべく多くの来館者とコミュニケーションを図り、質問などに積極的に答えていく。

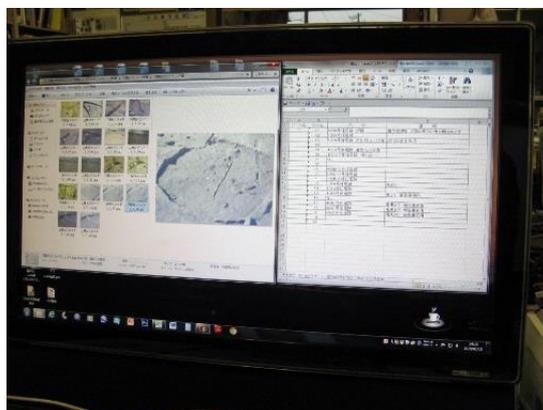
(観覧者目標数 16,200人)

### (2) 露出展示遺構保全事業

保護棟内に露出展示されている竪穴住居跡の適切な保全を図るため、定期的なメンテナンスを実施する。



露出展示遺構保全作業の様子



カラスライド索引作成作業の様子

## 3 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

### (1) 企画普及事業

項目	目的・内容
開館50周年関連事業	開館50周年を記念して、歴史博物館と共同で弥生中期の稲作導入期をテーマとした企画展を開催する(会期:9月16日(土)~11月12日(日)、会場:歴史博物館)。また、それに関連した体験学習等の関連イベントも開催する。
「いそっぴゴールデンウィーク2017スタンプラリー」への参加	磯子区の市民利用施設が企画する、ゴールデンウィークの企画への参加。
「子どもアドベンチャー2017」への参加	横浜市が取り組んでいる児童を対象とした夏休み企画への参加。
三殿台遺跡整理ボランティア	埋蔵文化財に関心ある市民に、ボランティアとして整理作業に参加してもらい、接合・復元、修復作業を市民協働で実施する。

	埋蔵文化財修復方法を体得してもらうとともに、市民の生涯学習意欲に対応する。年2回ボランティア研修を行うとともに、適宜埋蔵文化財センター、歴史博物館と連携した研修を行う。 また、体験学習の補助を行う。年2回の研修を行う。
三殿台遺跡ガイドボランティア	埋蔵文化財に関心ある市民に、ボランティアとしてガイドに参加してもらい、来館者への三殿台遺跡の解説を行うとともに、生涯学習支援を行う。年2回ボランティア研修を行うとともに、適宜埋蔵文化財センター、歴史博物館と連携した研修を行う。 また、体験学習の補助を行う。年2回の研修を行う。
学校見学の受け入れ	小・中・高・大学による学校見学を随時受け入れる。
職業体験・館務実習の受け入れ	職業体験は随時、学芸員資格取得に伴う館務実習は大学の夏休み中に3人程度まで受け入れる。
クラブ活動・総合的な学習サマースクール等への支援	クラブ活動・総合的な学習・サマースクール等の支援を行う。
ホームページの運営	月1回程度ホームページを更新し、体験学習の情報等を広報する。
ダイヤモンド富士観察	ダイヤモンド富士が見学できる可能性のある期間、開館時間を延長する。
その他広報	(ア) 体験学習の案内チラシを作成し、周辺小・中学校、市民利用施設に配布する。 (イ) 「PLANET かながわ」等のインターネットを利用した情報提供。 (ウ) テレビ、ラジオ等放送媒体による施設案内。 (エ) タウン紙等紙媒体による施設案内。



子どもアドベンチャー2016



GW 勾玉作り教室



ダイヤモンド富士

## (2) 体験学習事業

項目	目的・内容
ゴールデンウィーク体験教室	ゴールデンウィーク期間中に行う、子ども向けあるいは親子向けの体験教室。勾玉作り教室、石器作り教室、火起こし教室など、古代の技術を体験する。いずれも当日申込み。なお、これらの体験教室は、磯子区館長連絡会に参

	加している施設で連携して行う「いそびゴールデンウィーク2017」のチラシに案内を掲載する。
「開港記念日」市民優待デー	6月2日の開港記念日に、子ども向けの体験教室を行う。普段有料で行うものも無料にし、開港記念日という横浜ならではの休日に親子で楽しんでもらう。
キャンプ in 三殿台	国指定史跡の遺跡公園である三殿台にキャンプを張り、家族で一晩を過ごす。弓矢撃ちや火起こしの体験も行い、遺跡に暮らした古代人の生活を体感してもらう。7月下旬に開催。6家族限定で事前申込み。
夏休み体験教室	夏休み期間中に行う、子どもあるいは親子向けの体験教室。勾玉作り、土偶作り、土器作り、火起こし、石器作りなど、多彩な体験教室を開催する。また古代人体験教室として、石器を使って果物の皮をむいたり、弓矢を撃ったりなど、遺跡に暮らした古代人の生活を体感する教室を開催する。
開館50周年関連体験学習	開館50周年記念企画展に関連させ、弥生時代をテーマとした体験型の催し物を行う。弥生土器作り、アクセサリ作り、石斧使用体験などを予定。
ひらひら凧作り教室	12月の年末に行う。細い竹の枝に糸をつけ、障子紙で小さな凧を作る教室。簡単な遊びとして、冬休みに入った近所の子ども向けに行う。当日自由参加。
冬の土器作り教室	1月の3日間かけて粘土こね・成形・調整・文様付けを行い、その後乾燥させて2月に焼成して完成させる。事前応募。



土偶・土器野焼き



古代人体験教室 弓矢うち



キャンプ in 三殿台

### (3) 展示事業

項目	目的・内容
土器作り教室作品展	土器作り教室の参加者が製作した土器を展示室で展示し合わせて施文具や制作方法などを解説していく。11月実施

### (4) グッズ制作事業

項目	目的・内容
缶バッジの製作・販売	三殿台考古館オリジナル缶バッジを製作し、販売する。
土器片ペンダントの製作・	土器片ペンダントを製作し、販売する。H28年度より、ベンガラで赤色

販売	塗彩したバリエーションを販売。
オリジナルクリアファイルの製作・販売	オリジナルクリアファイルを製作し、販売する。



土器片ペンダント



缶バッジ

#### 4 施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

三殿台考古館の施設維持を行う。

##### （1）休館日の変更

###### （ア）休館日の変更に伴う広報・掲示等

休館日を、従来の第3水曜日休館から、毎週月曜日休館へと変更する。それにもない、当館HPや財団発行の広報誌、館周辺の案内板の表示を改定する。

###### （イ）休館日増加に伴う職員勤務体制の充実化

毎週月曜日休館にすることによって、休館日が毎月3日程度増え、開館日の勤務職員の人数を増加させ、来館者へのサービス向上を図る。とくに、外部との連携事業などに関連して、職員が出張できるような体制を組み、外との連携の充実化を図る。（例：出張勾玉作り教室など）

###### （ウ）休館日増加に伴う施設維持の充実化

休館日を増加させることによって、職員勤務体制を充実化させ、施設整備に余力を割けるようにする。また来館者に危険が及ぶような施設修繕などを、増加した休館日に実施するなどする。

##### （2）三殿台考古館の管理

###### （ア）経常的な維持管理

施設内の清掃・草刈り・樹木の剪定。復元住居・住居跡保護棟・展示室を良好な状態に保つための維持管理を行う。

###### （イ）開館時間の拡大

本年度も午前9時から開館し、4月～9月は午後5時まで、10月～3月は午後4時まで開館する。一方、職員の施設内の定期的巡回などの危機管理対策を実施する。また、車椅子やベビーカーでも利用しやすいようにするため、階段スロープ化等の実施について設置者と検討・協議する。

##### （3）飲料販売

敷地内に自動販売機を設置し、飲料を販売する。